



2003春
No.4

発行所 ユニセフ子どもネット事務局 財団法人 日本ユニセフ協会 広報室 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
でんわ: 03-5789-2016 ファックス: 03-5789-2036 電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

ユニセフTOPICS

「平和こそユニセフの願い」 ～ ユニセフ事務局長が声明～

戦争の緊張がたかまる中、キャロル・ベラミー・ユニセフ事務局長は「ユニセフは、現在の状況が戦争にならずに終わることを希望しています」と声明を発表しました。

ユニセフは1980年代初めからイラクで活動し、1991年の湾岸戦争の時やその後の復興を含め、現在も活動を続けています。しかし、平和を願うからといって、万が一のことを考えずに何も準備しないということではできません。ユニセフは、ほかの国際機関とともに、戦争が起きても、すぐに子どもたちに対する人道支援をおこなえるように備えました。

戦争が起きれば、さまざまな施設や道路が破壊され、予防接種のためのワクチンを運ぶこともむずかしくなります。予防接種を受けられない子どもが増えれば、せっかく根絶が間近になったポリオや、避難民

キャンプなどで子どもの命を奪うはしかが流行してしまうかもしれません。

そこで、ユニセフは2月から緊急のポリオとはしかの予防接種キャンペーンをはじめました。400万人以上の子どもにポリオの予防接種をおこなうために14000人の保健員が動員されました。保健員は一戸一戸を訪問して、すべての子どもが予防接種を受けられるように活動しました。すべては時間とのたたかいだったのです。

「イラクの子どもたちが非常に弱い立場にあることはまぎれもない事実です。事態がどのようなことになるとも、イラクの子どもたちの健康と福祉が優先的に考えられるべきです」とベラミー事務局長は話します。

ユニセフは、イラク地域に何千トンもの支援物資をすでに運び入れています。これには医薬品や子どものための栄養補助食、水を供給する装置などが含まれています。

イラクの最新情報はホームページで。
<http://www.unicef.or.jp>



©UNICEF/HQ 03-0006/Shehzad Noorani/2002

子どもの栄養状態についての 調査結果発表

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)で、全国的な子どもの栄養状態についての調査結果が発表されました。この調査はユニセフとWFP(世界食糧計画)が政府と協力して昨年10月におこないました。調査結果によると、最悪の食糧危機があった後、これまでの4年間に、北朝鮮の子どもの栄養不良の状態はかなり回復してきているということがわかりました。標準より体重が少ない子どもの割合は1998年の61%から2002年には21%まで減っています。また、非常に激しい栄養不良の状態の子どもも16%から9%に減っています。

養不良であることに変わりはありません。ほかにも、特に母親の栄養不良と貧血がひどいことがわかったと伝えられています。お母さんに栄養が足りないと、子どもに直接影響するので、深刻な問題です。

さらに、報告書は、この回復は国連などの人道支援に頼ったものであるため、もし、こうした支援が少なくなったり止まったりしたら、子どもたちの状況はすぐにまた悪くなってしまおう、危機はまだ終わっていないのだ、と警告しています。



©UNICEF/HQ 97-0442/HORNER



©UNICEF/HQ 97-0443/HORNER

もっとも食糧危機の激しかった1997年の時の写真。その後子どもたちの状況は回復してきていますが...

史上最大の「学校へ戻ろう」キャンペーンはじまる

2003年はアンゴラにとって、とても大切な年になるでしょう。というのも、27年間つづいた内戦を乗り越えて、史上最大規模の「バック・トゥ・スクール(学校へ戻ろう)」キャンペーンがはじまったからです。

内戦によって、アンゴラ国内の学校もその他の施設もみな壊されてしまいました。学校が足りないこと、学用品が買えないこと、子どもが働かなければならないこと、出生登録書がないことなどの理由のために、アンゴラの子どもの44%は学校に通えませんでした。

ユニセフは、キャンペーンに備えて、アンゴラ政府と協力して、4000人の先生をあらたにトレーニングし、1300の教室を整備し、多くの教材を子どもや先生に届けました。そして、2月10日には、25万人の子どもたちが学校へ戻ることができたのです。

アンゴラ国内では、まだ300万人の人びとが避難生活をおくっています。子どもたちが学校に通えるようになることは、平和と復興への第一歩になります。今後、特に教育を受けられないことが多い女の子も学校に通えるようにすることなどを目標として、キャンペーンはさらに続けられる予定です。



©UNICEF Angola/MengaThomas/February2003

STORY アンゴラ

背中には赤ちゃんをおぶって、両手にたくさんの教科書をかかえて、18歳のドロレス・ジャンバは、学校へ向かいます。今日からドロレスは先生です。彼女を50人の生徒が待っています。ドロレスは、新しい「バック・トゥ・スクール」キャンペーンにあわせて、トレーニングを受けた4000人の先生のひとりです。

ドロレスが住んでいるのは州都キタから北へ30キロはなれたクンヒンガという町です。戦争のため、クンヒンガ全体でも、残っている学校は21校だけでした。でもユニセフの支援で1年のうちに41校のあたらしい学校ができました。町には市場もあり、学用品も売っていますが、多くの家族は学用品より食べ物を買うだけでせいじつはいいです。でも、今日は、子どもたちみんなに、学用品の入ったバッグが届けられました。中には、ノート、えんぴつ、消しゴムが入っています。

8歳のルシアナも学校に行くのは今日がはじめて。バッグをにぎりしめてみんなと先生を待っています。ドロレスの声がひびきました。「さあ、みんな、教室に入ってね」

今日からアンゴラの町のあちこちで、子どもたちが学校に通う姿が見られるようになるでしょう。当たり前の生活がもどってくることで、それが「平和」なのかもしれません。

もくじ

- ユニセフTOPICS 1
- 2003年世界子供白書発行「子ども参加」が大切! 2-3
- 地図で見る世界の子どもたち「出生登録は生まれてすぐの子どもの権利」 4-5
- ユニセフ子どもワークショップ2003報告「子どもの人身売買」をなくしたい 6-7
- REPORT&INFORMATION お知らせと報告 8